

ちよつとつ話

第三四号 悲哀

京都のイメージは情緒に溢れた町並み、本山級の仏閣も多く、昔は信仰の中心を成していましたが、今や拝むから見るに変わり外国人にも観光都市として有名です。今年は特に法然上人八百回忌、親鸞上人七百五十回忌の法要が勤まりますので信心堅固の方々で大変な混雑が予想されます。鑑みますと自然災害が少ないのも寺が多い原因の一つでしょう。

そんな中で浄土宗総本山知恩院は今春大法要を勤める予定でしたが三月に起きた東北関東大地震の影響で秋に延期されました。当然の事態です。連日の報道を見聞きし、その被害の大きさに悲しみが胸を包みます。私は常に「自然にも喜怒哀楽がある」と思っています。今回の天災を見れば自然が「ヤレタ」と思わずにはいられません。それは今までに日本が経験したことのない大きな地震、津波による自然災害だったのです。福島原発の問題もあり、これから復興に何年かかるのか分かりません。被害は甚大で被害総額数十兆円になるそうです。が金銭ではなく我々が慣れ親しんできた風土や人間関係を壊された怒りと悲哀、やるせなさがストレスと成って重く押し掛かるのです。昔とは違い現在のライフラインは一步も二歩も違うと思っていましたが大都会の脆さが浮き彫りに成って来ました。水が無い、米が無い、野菜は汚染されて食べられない、この先不安材料で一杯です。日本の国はハードにしろ、ソフトにしろ、非常事態の対応は充分可能だと思っていました。が怪しいものです。それと同時に心神喪失に陥るかもしれない人々のメンタルケアが充分行き届くか如何かも分かりません。心配致しております。世界が注目する中、日本の国民が一致団結してこの国難を乗り切らなくては日本の国運も危ぶまれます。この様な非常事態に個々の利益を考えたり、個々の保身を考えたりする事は恥ずべきことでしょう。

世の中「ほどほど」が一番です。春の風。春雨の心地よさ。思いようですが、事足りる以上の物は本来必要なく、さすれば欲に溺れる事も無いでしょう。各自の能力に依じて、歩々急ぐ事無く、遅れる事無く、自分自身を味わいながら心にゆとりをもって、進みましよう。頂いた種から芽をだし、花を咲かせ、又亦花を咲かせましよう。

今月は当山の檀信徒の方々にとって重要な法要が営まれます。それはお地藏様の六道を巡り、六道の札を受け、閻魔王様の御印を我らが額に押しつけて頂けるといふ法要です。健康を祈念するも人は必ず命終の時を迎えます。その時「六道の納め札」が頭陀袋に入れてあれば六道の関所を無事に通過し極楽に往生出来るのです。安心、安全、ご用心。

二十三年四月一日

善壽界善入院油掛地藏尊